

地元でとれた魚を消費者の食卓へ
～ 消費者と共に歩んだ産直活動～

階上漁業協同組合婦人部
部長 高屋敷 幸子

1. 地域の概況

階上町は、図-1に示したように太平洋側の県南端に位置し、海岸線の全長は5.5キロで全域が岩礁地帯である。人口は、現在約14,600人、隣接する八戸市のベットタウンとして、国道45号線沿いを中心に宅地化が進んでいることもあって十数年増加している。

2. 漁業の概況

階上漁協の組合員数は527名、主に小型定置網、イカ釣り、刺網、採介藻漁業を営み、平成9年度の漁獲高は2,290トン、7億5千万円で、スルメイカ、サケ等の魚類が大半を占め、次いでウニ、アワビ、若布等であった。また、町の魚、アブラメの放流やウニ、アワビの増養殖場を整備しており、県栽培漁業センターもある。

3. 婦人部の組織と運営

昭和61年4月に結成し、部のモットーは「意見を十分交換し合う」ことである。

平成10年度の部員数は39名、6地域班長を含めた12名で役員を構成し、運営費には、各種イベント、加工販売活動の手数料もあてている。

4. 実践活動課題選定の動機

1) 階上町夏の海観光化への協力

町が夏の観光客をあてこんだ「第1回いちご煮祭り」に、結成後間もない婦人部が、2,000食のいちご煮を販売し、地元関係者に高く評価され活動の起爆剤となった。

2) むらとまちを結ぶ婦人のつどいへの参加

婦人部結成と同じ年の12月、八戸市を中心とした近隣町村の農漁業女性団体、消費者団体合わせて570名が参加したこのつどいにおいて、漁村婦人の立場から「いちご煮まつり」の体験や漁業者の生活の状況を紹介した。その後の交流会で、消費者からの「地元の食材を使った、手作り品は安心だ」という好意的な声に、消費者を巻き込んだ活動の重要性を認識した。

5. 実践活動状況及び成果

婦人部活動の概要は表-1に、現在参画している直売所等の概要は表-2に示した。

1) 近隣市町村の団体との連携による広域的な取り組み

① 田舎の味まつりへの参画

前述2)のつどいのあと「地元の特産物を活かした、無添加で衛生的な手作り品がほしい」という消費者と「安全で新鮮なものを提供したい」という生産者との共通理解が得られたことで、翌年1月八戸市のデパートで「田舎の味まつり」を開催した。

日頃働くのは浜や田んぼ、畑しか知らなかった母ちゃんたちは、気恥ずかしく声もなかなか出せない状況だったが、つどいに参加した消費者の方々の励ましの声がき

かけとなり、集団パワーで4日間のイベントを成功させることができた。このイベントは現在も年1回開催され、大切な行事のひとつとなっている。

②田舎の味推進協議会設立への参画と活動

昭和63年6月、農漁業の生産者達は、「味まつりで売ったものを、いつも売っている所がほしい」という消費者の声、「販売したいが、毎日売りにするのは大変」という生産者、「忙しい時は、消費者も手伝いましょう」という言葉に励まされ、農漁業者が広域的に参画した直売活動を組織的、継続的に進めるための協議会を設立した。

この会は、「会員一人一人が社長」「継続は力なり」を合い言葉に、八戸市内のデパートの地下に直売店を開店、現在会員は24団体と個人26名で繁華街に独立店舗を開設し、会員の母ちゃん達で運営管理にあたっている。

2) 町内における他団体との活動

①広域活動で得た直売活動のノウハウを活かす「道の駅はしかみ」での活動

町の中央、国道45号線沿いのこの直売所は、海の幸、山の幸、母ちゃんたちの実演コーナーがあるため、八戸市内、町内住民の台所的存在として好評である。

②フォレストピア「階上」の運営管理に参画

昨年4月に開設したこの施設の運営管理は、平成9年度組織化された町の農漁業の婦人団体で構成する階上町婦人活動推進連絡協議会である。現在、この施設を拠点に地場産品の商品開発、販売促進活動に取り組んでいるが、当婦人部は直売活動の豊富な経験から、消費者との体験交流を企画し「魚のさばき方、美味しい食べ方」を指導し、なごやかな交流会をおこなう等、運営のリーダーシップをとっている。

3) 婦人部独自の魚食普及活動

①町内に「濱の家」の開店

昭和63年から始めた食堂「濱の家」は、磯の風味をどっさり含んだ味と、気さくな母ちゃんたちの人柄がうけて、釣り人や地元の子供達の交流場所にもなっている。

②加工への取り組み

取り組んでいる加工品の種類と期間は表-3に示した。指導機関の連携の元に取り組んできたが、常設販売店があることと、衛生面を考え独立した加工施設が欲しい」という要望により、平成2年に町の援助で加工施設が建設され、この施設を拠点に販売許可を持って、意欲的に取り組んでいる。

③水産教室への参画

昭和44年から行っている地元小学生を対象としたフノリ採り体験は、それぞれが一父兄として協力していたものを婦人部結成後は、漁業者の立場から参画し、新たに町の魚「アブラメ」の稚魚の放流にかかせない標識つけ、乗船体験、ウニの殻むきなどを通して、漁業者の働く環境、美味しい魚の食べ方なども知らせている。

④ 各種イベントへの参画

町内のイベントへの参加状況は表-4に示した。

結成当初から参画している、町の一大イベント「いちご煮祭り」も年々好評で、13回目の今年は、2日間で3,518食分を販売した。

6. 波及効果

1) 階上町婦人活動推進連絡協議会が組織化された。

- 2) 自主運営している直売所の交流内容が増え常連客が増えた。
- 3) 水産教室でのフノリ採り体験が学校給食との連携につながった。

7. 今後の課題や計画と問題点

多世代同居が多い漁家においても少子化傾向が強まり、高齢化社会の抱える問題は避けて通れない状況にあるが、婦人部としては、これまでの活動が消費者をはじめとした人との信頼関係を大事にしてきたこと、高齢者の知恵や技、文化等の伝承があって活動できたことを子供達に具体的に認識させ、これらを財産として更に高い付加価値を生み出す漁村を子供達と共に作っていききたい。

- 1) 地域の資源を活かした新しい商品づくり
- 2) 消費者と共に育てる漁業
- 3) 子供と築く高齢者の住みよい地域

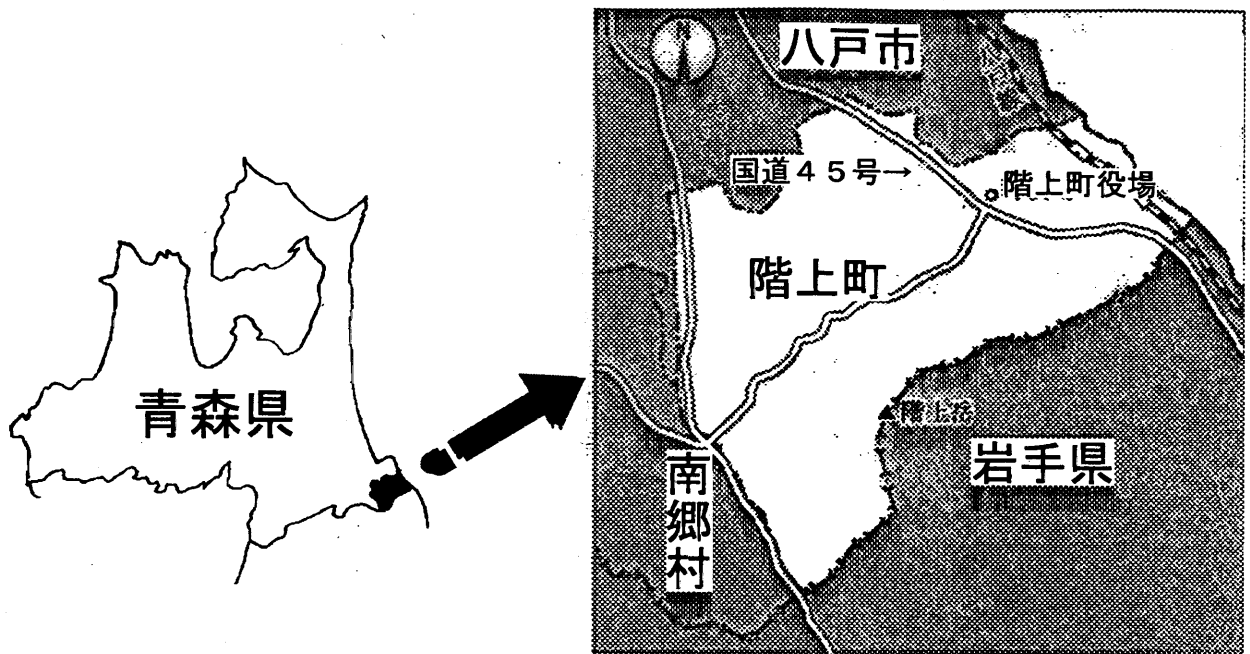


図-1 階上町の位置

表-1 婦人部活動の概要

項目	内容	年度													
		S 61	62	63	H 元	2	3	4	5	6	7	8	9	10	
貯蓄推進	日当の振り込み				←	←	←	←	←	←	←	←	←	←	
	大漁定期積立て							←	←	←	←	←	←	←	
	定期積金				←	←	←	←	←	←	←	←	←	←	
魚食普及	直売活動			←	←	←	←	←	←	←	←	←	←	←	
	水産教室	←	←	←	←	←	←	←	←	←	←	←	←	←	
	イベント参画	←	←	←	←	←	←	←	←	←	←	←	←	←	
	体験交流				←	←	←	←	←	←	←	←	←	←	
	学校給食との連携										←	←	←	←	
	加工品の開発								←	←	←	←	←	←	
環境保全	海岸清掃									←	←	←	←	←	
	わかしお石鯿共同購入									←	←	←	←	←	
	廃油利用の石鯿づくり									←	←	←	←	←	
	漁村集落排水整備への積極参加												←	←	
														←	

表-2 参画している直売所等の概要

所在地	直売所名等	特 徴	運営組織
八戸市	田舎の味直売店	そうざい部門	田舎の味推進協議会
階上町	道の駅はしかみ 生産物直売所	母ちゃんたちの 実演販売	階上町産業振興会
	フォレストピア階上	体験交流	階上町婦人活動推進連絡協議会
	濱の家	夏場の食堂、直売	階上漁協婦人部濱の家友の会

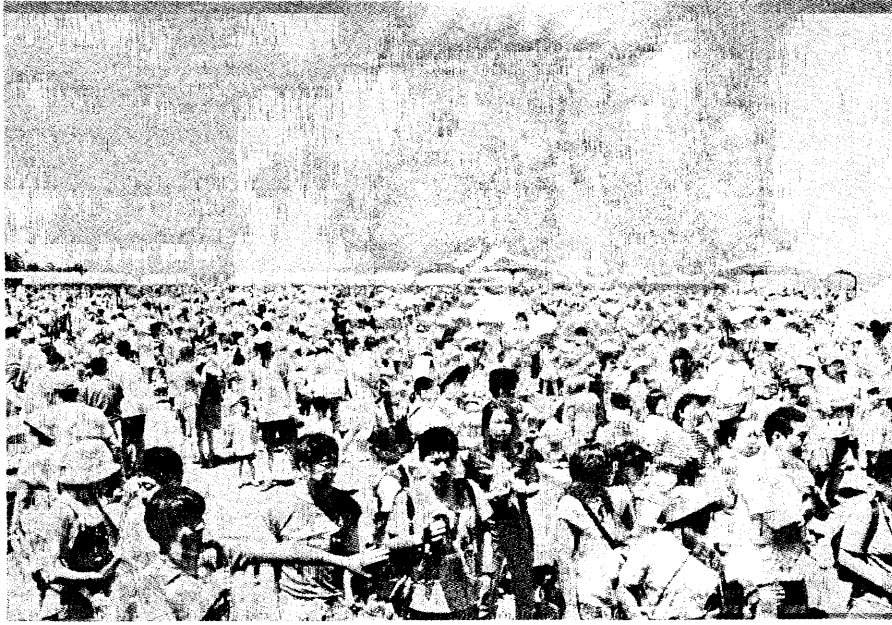
表-3 取り組んでいる加工品の種類と期間

品名	年度	H3	4	5	6	7	8	9	10
		塩ウニ	←	←	←	←	←	←	←
サケチップス				←	←	←	←		
アカハタもち				←	←	←	←		
サケの薫製				←	←	←	←		
サケのとば	←	←	←	←	←	←	←		
フノリ入りドーナツ								←	←
佃煮								←	←
塩から								←	←
味噌汁の具								←	←

表-4 町内イベントへの参加状況

イベント名	年 度													
	S 61	62	63	H 元	2	3	4	5	6	7	8	9	10	
いちご煮まつり	←	←	←	←	←	←	←	←	←	←	←	←	←	
臥牛祭				←	←	←	←	←	←	←	←	←	←	
産業振興祭											←	←	←	
つつじまつり						←	←	←	←	←	←	←	←	

階上漁協婦人部の活動状況



やる気を興させる
いちご煮まつり

起業的活動
ノウハウが吸収できる
田舎の味推進協議会



イベント食堂コーナー
で町の魚
アブラメをPR



子供たちに漁業への
理解を深めさせた
水産教室



消費者を地元
引き込んだ
鮭加工体験交流会



熱心に取り組む
加工品開発